〈第33回　山﨑賞〉

はこね山周辺のクマゼミ生息数調査

藤枝市立青島北小学校
４年　川島　大和

１　動機

2014年に茨城県日立市から藤枝市への引っ越しを機に、茨城県日立市にはいないクマゼミが藤枝市にいることを知った。

2015 年にはクマゼミはどこまでいるのか東海道本線に沿って駅近くの公園でセミの抜け殻を集め、どこでクマゼミの抜け殻が見つかり、どこでクマゼミの抜け殻の数がアブラゼミの抜け殻の数よりも多くなるかを調査した。結果、小田原でクマゼミの抜け殻がはじめて見つかり、小田原以東ではクマゼミの抜け殻が見つからなかった。また、湯河原まで少なかったクマゼミの抜け殻が三島で急に増え、クマゼミの抜け殻の数がアブラゼミの抜け殻の数よりも多くなった。湯河原と三島の間には、はこね山があり、はこね山との関係に興味を持った。

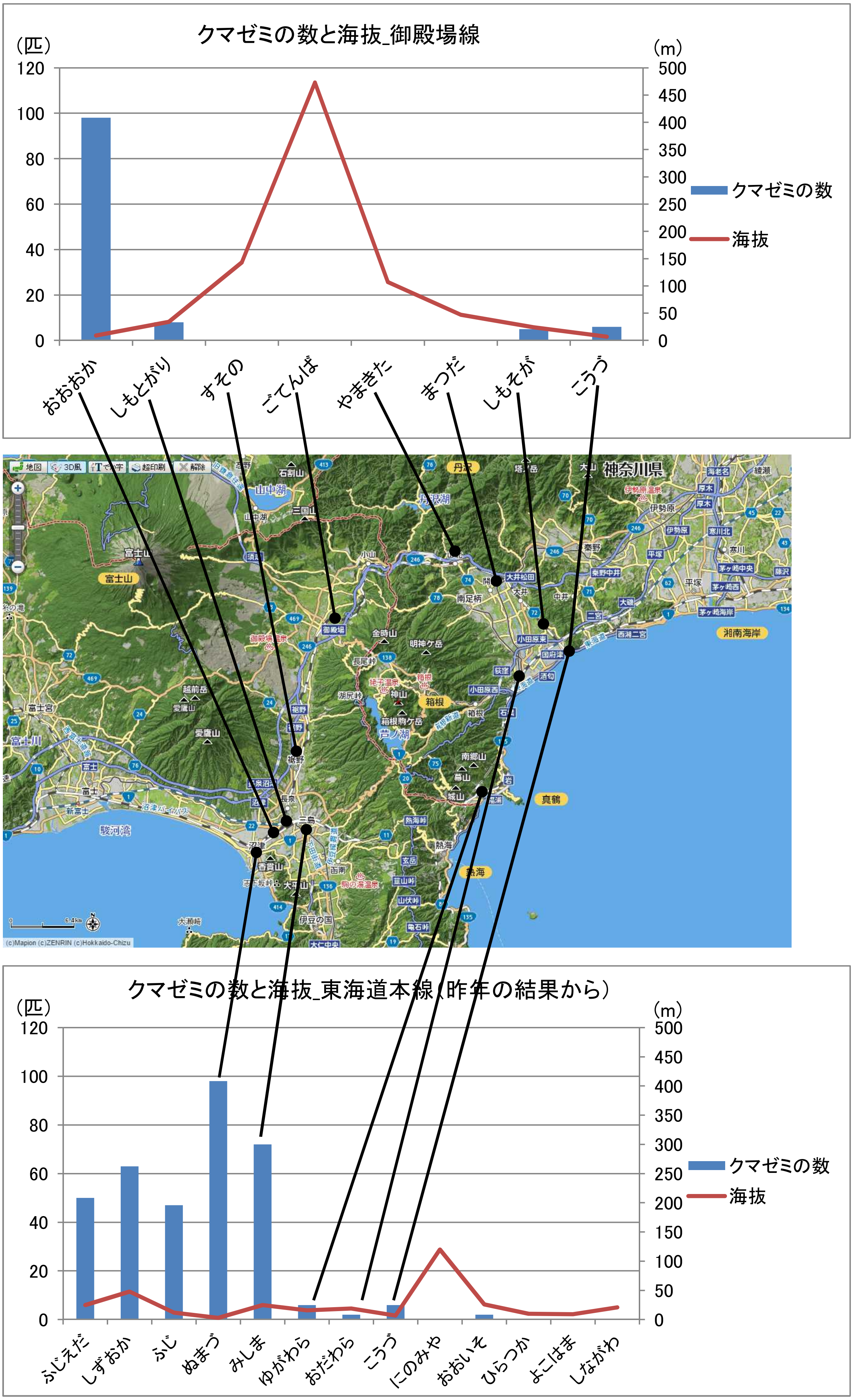
昨年までの結果から2016年は御殿場線に沿って､はこね山の周りのクマゼミの抜け殻の有無を調べ、抜け殻の有る所と無い所との間にある理由を探したいと思い、研究を始めた。

２　調査方法

① 昨年クマゼミの抜け殻が見つかった小田原、見つからなかった平塚とその周辺について、抜け殻の有無を調べる。
② 国府津から沼津まで、クマゼミの抜け殻の有無を調べる。
③ 国府津から沼津の間のどこで、クマゼミの抜け殻の数がアブラゼミの抜け殻の数よりも多くなるかを調べる。
④ クマゼミの抜け殻が見つかった所と見つからなかった所との違いについて考える。

３　結果

a 大磯でクマゼミの抜け殻が見つかった。大磯より東ではクマゼミの抜け殻は見つけられなかった。
b 大岡でクマゼミの抜け殻の数がアブラゼミの抜け殻の数よりも多くなった。
c 海抜が高いところではクマゼミの抜け殻は見つからなかった。
d クマゼミの見つかったところは、はこね山を挟んで海抜が低く開けていて、海沿いではない場所だった。
e はこね山より東側では、クマゼミの抜け殻が見つかっても数が少なかった。
f 昨年同様、砂地にはどの種類のセミの抜け殻も見つからず、海沿いや川沿いの水辺では抜け殻の数が少なかった。


クマゼミの数と海抜_御殿場線
(匹)
(m)
120
100
80
60
40
20
0
500
450
400
350
300
250
200
150
100
50
0
クマゼミの数
海抜
おおおか
しもとがり
すその
ごてんば
やまきた
まつだ
しもそが
こうづ
神奈川県
富士山
駿河湾
芦ノ湖
箱根
真鶴
熱海
湘南海岸
クマゼミの数と海抜_東海道本線（昨年の結果から）
(匹)
(m)
120
100
80
60
40
20
0
500
450
400
350
300
250
200
150
100
50
0
クマゼミの数
海抜
ふじえだ
しずおか
ふじ
ぬまづ
みしま
ゆがわら
おだわら
こうづ
にのみや
おおいそ
ひらつか
よこはま
しながわ

４　考察と来年に向けて

昨年の東海道本線沿いでの調査結果では、クマゼミの抜け殻が三島で急に増え、三島より東では見つかっても少なかった。今年の御殿場線沿いでの調査結果では、大岡で急に増えて、大岡より北は見つかっても少なかった。三島と大岡は沿線は違うが非常に近い。東から調べても北から調べても大体同じ地域でクマゼミの抜け殻が急に増えた。

海抜が高いところではクマゼミの抜け殻は見つからなかった。

これらの事から三島や大岡でたくさん見つかったクマゼミの抜け殻が湯河原で少なくなるのは、はこね山が関係していると考えた。同じように小田原、下曽我、国府津及び大磯と、はこね山より東側の地域でクマゼミの抜け殻が見つかっても少ないのは、はこね山（海抜）が理由でクマゼミの移動がしにくい為だと考えた。

クマゼミの抜け殻が急に増えた三島や大岡は海抜が低く、開けていて、海沿いではない街中であった。

来年は、これら結果を参考にクマゼミの抜け殻がありそうなところ、なさそうな所を予想して公園を選び、実際に抜け殻を集めに行って、予想通りにクマゼミの抜け殻が見つかるのかどうかを確かめたい。